

編集後記

今号の特集テーマとして設定させていただいた「響き」は、前号の「音楽」を引き継いで、取りこぼさないようにという配慮も働いていた。というのは如何にも上から目線で烏滸がましく、実際のところ、私自身が前号に間に合わなかったから、編集担当の特権を行使したという実状を白状しなければならない。

当初設定した「響き・兆し」の「兆し」のほうでも、諸文化圏から集まることを期待し、自分でも纏めたいと欲張っていたのだが、やはり間に合わず断念し、今号に寄せられた論考を括ることばとして「響き」とすることにした。

平成の終焉に諸行無常の雰囲気漂うなか、個人的にも貴重な体験をした。阿父を看取ったのである。とかく忌み嫌われる「死」であるが、人生で最初で最後、しかも運が良くなければ立ち会えなかった父親の臨終が、あまりにも神聖だったので、憚りながらも一言述べさせていたたく。脳幹出血で倒れてから約一週間、ICUより機能低下の報。その日も、私が単身赴任先から帰省している週末だった。父は浄土宗侶でもあったので、見よう見まねの臨終行儀を施した。予め持ち込み許可を得ていた額入りの「来迎図(阿弥陀佛が西方極楽浄土よりお迎えに来る絵図)」を枕元に掲げ、手に数珠を握らせ、胸元に威儀細という小さな袈裟をのせた。いずれも父が普段使っていたものだ。すると、どんどん心拍数が低下。45分後、その数値が0となり、やすらかな大往生。まさに阿弥陀佛のお迎えを頂戴したと信ぜずにはいられない、神聖な出来事だった。あとで「45」という数字にも父の生きざまを物語る深長な意味合いがあることを『無量寿経』梵本中に発見したのだが、詳しくは他所にて。生前、私の眼にはそうは見えていなかったが、父は存外高僧だったのかもしれない。

震える小声で唱えた私の十遍の南無阿弥陀佛の「響き」は父にどう届いていたのだろうか。

(水野善文)

投稿規定

1. 『総合文化研究』は東京外国語大学総合文化研究所の研究活動の成果ならびに所員の研究成果の発表のために、同研究所の責任において編集・発行される。なお本誌掲載の論文等に関しては、著者が著作権を有するが、著作権法で規定する複製権及び公衆送信権については、著者は国立大学法人東京外国語大学にその使用を許諾するものとし、本誌掲載論文等は同大学によって電子化・公開される。
2. 『総合文化研究』は原則として各年度ごとに1号を発行する。同研究所は同誌発行のために編集委員会を置く。
3. 投稿は、同研究所の所員ならびに同研究所の研究活動に寄与した者が執筆した未発表の論稿に限る。
4. 編集委員会は必要に応じて外部の者に寄稿を求めることができる。
5. 内容区分は「特集論文」「自由論文」「報告」「書評」とする。
「特集論文」：特集テーマに沿った、執筆者自身による未発表の研究論文。
「自由論文」：執筆者自身による未発表の研究論文。
「報告」：同研究所で開催した講演会・シンポジウムの内容についての報告。
「書評」：書評・新刊紹介等。
6. 使用言語は特に制限しない。ただし、印刷の都合上、言語によっては、写真製版用完全原稿を要求することがある。
7. 写真・図表等は完全原稿とし、希望の大きさと挿入箇所を指定すること。
8. 注は、後注とすること。
9. 参考文献等は、注の後に付すこと。
10. 投稿原稿は、返却しない。
11. 同誌発刊後に、本文等を訂正する必要がある場合は、著者からの申し出に基づき、正誤表で対応することを原則とする。
12. 編集上の細則については、編集委員会が適宜これを定める。

Trans-Cultural Studies No.22 総合文化研究 第22号

2019年2月15日発行

責任編集 水野善文

編集スタッフ 石井沙和 木村千恵
永盛鷹司 安永有希

発行 東京外国語大学 総合文化研究所

〒183-8534 東京都府中市朝日町3-11-1

電話 042-330-5409

Fax 042-330-5410

Web <http://www.tufs.ac.jp/common/fs/ics/>

e-mail tufs422ics@tufs.ac.jp